

VISTA 9 / VISTA 1 ユーザーレポート

中部日本放送株式会社 様

VISTA 9 - 42 / VISTA 1 - 32

BスタジオサブをVISTA 9で更新 / ナゴヤドーム放送席にVISTA 1を導入



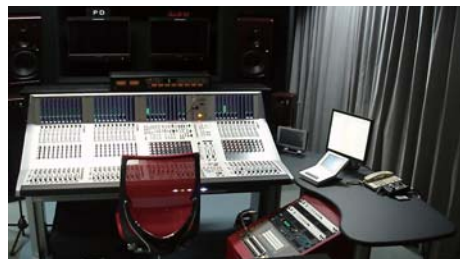
中部日本放送株式会社
技術局 制作技術部
名畑 輝彦

Bスタジオについて

Bスタジオは平日2時間の生放送の帯番組、土曜・日曜とそれぞれ別の生番組で連日フル稼働しているスタジオです。2013年1月に約14年ぶりに音声設備更新工事を行いました。生放送対応サブ故に更新工事にあたっては機器の“安定性”と“使いやすさ”を最も重視しました。

選定のポイント

音声卓の選定に関しては、スタッフ間で何度も話し合いました。安定性、導入規模、フェーダー数、音質、現在番組で使用している環境などを他社製品とも比較しつつ検討を重ねた結果、音声卓の自由度の高さ、操作性、視認性などを重視



したいという意見が多く出ました。以上の点を踏まえつつ、既に当社ではMA室でVISTA 7を導入済みで、操作性の秀逸さは多くの音声担当の一致を得ていた事と、この卓なら多様なニーズに迅速に対応する事が出来ると判断し、VISTA 9を選定するに至りました。

音声エリアの環境改善

卓の導入と共にこだわったのは、視認性がよく、コミュニケーションが取り易い卓まわりの構築、そして音響環境の改善、スタイリッシュなVISTAの形と色合いを生かした見た目のカッコ良さです。とりわけ音響環境については、周辺メカノイズや音声エリア後方のラック室前の大きなガラス面の反射など、改善したい箇所がたくさんありました。今回スチューダーと日東紡エンジニアリング(株)に協力していただき、音声エリア全体のレイアウトから特注家具やモニター棚の製作までをお願いしました。サブの広さ、予算など様々なものと折り合いをつけながらの作業でしたが、納得いく環境が構築できたと思います。昨今、中継先への送り返しや連絡線に携帯電話が多用されており、Bサブでは5回線(内2回線はインカムへの取り込みが可能)の電話回線を構築しているのですが、本番中を含め出先とのやり取りに音声ミキサーが対応するのは煩雑だっ

たため、中継先との連絡やレベル調整を行えるコーディネーター卓も今回製作してもらいました。さらにVISTA脇のサブラックは、機器マウントを斜めにデザインしていただき、可動ラックとしてミキサーの操作しやすい位置に自由に動かす事ができる様にしました。また台本や周辺機器のコンローラーを乗せているサイドテーブルは当社音声スタッフの形状をデザインして、その通りに製作して頂きました。形はVISTAの形状に合わせて丸みを持たせ、色合いもVISTAを意識しています。サイドラックとミキサーの椅子は今回選定したスピーカー、PSI-AUDIOの赤色を意識して同系色にしました。全体的に黒・シルバー・赤の3色以外は極力使わないようにデザインをしましたが、非常にスタイリッシュにできたと自負しています。見た目の良さは直接音には関係無い様に思えますが、赤い椅子に座り煌びやかに光るVISTAを前にすると自然とやる気が沸いてきます。

そして、最後に行った音響調整は、音声スタッフを集め、実際に皆で音を聞きながら、ブロックや重り等を使い非常にアナログ的な手法で調整を行い、より良いモニター環境に仕上げていく作業でしたが、刻々と音が変わっていく過程は、大変意義深く、自分達の音作りの基準となるモニター環境の重要性を改めて痛感することになりました。